

令和3年度 葛飾区学力調査（6年生）結果の分析

【国語】

- 教科全体の平均正答率は、区とほぼ同じであった。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、区の平均を4ポイント上回った。聞き取ったことを正しく選択する力が身に付いていることが分かる。
- 「読むこと」の領域では、図が示す内容の箇所を文章の中から選ぶ問題が91%の正答率であった。文章の内容を正しく理解し、図と文章を対応させながら読むことができている。
- ▲「言葉・情報・言語文化」の領域では、区の平均を1.6ポイント下回った。漢字を正しく読み書きする力に課題が見られる。特に、適切な漢字を書く問題で3問中2問が20%台の正答率であった。タブレットの普及で文字を書く機会は益々減っていく中、文字を書くことについて既習事項をしっかりと復習し、知識が定着するよう繰り返し指導する必要がある。
- ▲「書くこと」の領域では、区の平均を3.4ポイント上回った。しかし、記述式の問題については、無回答率が30%近くあり、苦手意識があると考えられる。教科に関わらず、理由を明確にしながら自分の考えを伝える活動を多く取り入れ、表現力を伸ばしていく。

【算数】

- 「知識・技能」において、区の平均を上回る結果となった。今後も、基礎基本を大切にしたい指導を継続していく。
- 「図形」では、区の平均を上回ることができた。
- 「データの活用」については、区の平均を上回ることができた。
- ▲「思考・判断・表現」において、区の平均を4.1ポイント下回る結果となった。問題より、考えに対しての根拠を述べたり、解決の方法を説明したりする力に課題があると考えられる。日々の授業では、問題が正しいか正しくないのかだけでなく、なぜこのような解答になったのかを考えさせたり、根拠を表現させたりする活動を充実させる必要がある。
- ▲「数と計算」では、平均正答率が全国や区よりも下回った。小数の割り算や分数の四則演算の定着が不十分であることが伺える。今後も繰り返し練習に取り組んでいく。
- ▲「変化と関係」でも、平均正答率が全国や区よりも下回った。基本事項を活用した応用問題の正答率が大きく下回っていることが原因として考えられる。